

# Watching “Kabuki” with international students!

外国語学部 英語英文学科 3年 伊藤 葵



2017年12月3日から26日にかけて、東京

国立劇場で「隅田春妓女容性(すだのはるげいしゃかたぎ)」の歌舞伎公演が開催された。12月16日、当大学 英語英文学科の郷 健治教授のゼミナールの生徒一同と当大学の4名の留学生もこの公演を観劇した。郷 健治教授のゼミナールではイギリスの劇作家であるウィリアム・シェイクスピアを専門に研究しており、今回、日本の伝統芸能の一つである歌舞伎を観劇出来た事は今後のシェイクスピアの研究の大きな糧となるものであった。4時間半の公演時間の中で、生徒は皆それぞれ、自分たちが思う歌舞伎の面白さを発見したようであった。歌舞伎公演の終了後、留学生のマチエック、マニラ、マディタ、ゾフィーの4名に、日本の歌舞伎についてどう思うかについてインタビューを行った。インタビューは郷 健治教授のゼミナールの数少ない貴重な男子学生の中から選ばれた4名が行った。

## ・歌舞伎のイメージについて

学生「歌舞伎を観る前、歌舞伎についてどんなイメージを持っていた？」

―マディタ「歌舞伎は、男の人(男形)だけがやるもの」

―ゾフィー「メイクが濃い！」

―マニラ「日本らしいもの」

学生「どういうところが？」

―マニラ「音楽とか…」

―ゾフィー「服も！」

学生「服装、着物についてどう思った？」

―ゾフィー「キレイ！」

―マディタ「本当にキレイだった」

―マニラ「キレイだった」

学生「日本に来る前から歌舞伎の存在は知っていた？」

―ゾフィー「日本語の授業で知ったよ。日本の文化の一つとして」

歌舞伎は男の人だけで、女形の存在は知らなかったと言う留学生。同じように思っている海外の人は多いかも知れない。また、日本の着物は海外の人達にも受けが良いようであった。留学生は日本に来る前から歌舞伎を知っており、歌舞伎が日本文化として海外の人にも浸透している事が分かった。

## ・歌舞伎の内容について

学生「歌舞伎の内容の方はどうだった？」

―ゾフィー、マディタ、マニラ「(笑)」

―マディタ「よく分からなかった！……！！(笑)」



マチェックさん

学生「俺もよく分からなかった(笑) 本当に(笑) だって日本人あんな話し方しないじゃん(笑) 俺らでも分からなかったし、留学生は余計わからないよね(笑)」

学生「歌舞伎について何か思った事ある? 長かったな」とか(笑)」

—全員「長かった! 本当に長かった!」

学生「(笑)。会場内暑くなかった?」

—全員「暑かった! (笑) もうめっちゃくちゃ(笑)」

学生「違う演目の歌舞伎だったら、もう一回観たいと思う?」

—マディタ、ゾフィー「ん〜(笑)」

—マニラ「Yes!!!」

学生「マチェックはもう一回観たいと思う?」

—マチェック「同じやつを?」

学生「違う演目のやつとか:」

—マチェック「観たいかもね」

学生「そうだよ。今回のやつは難しすぎたよね:」

—マチェック「正直、物語の内容自体は全く分からなかった。だけど、物語に集中できなかった分、その場の雰囲気や着物に集中する事で歌舞伎を楽しめたよ」

学生「確かに。凄い良いコメント(笑) どういうところが一番印象に残った?」

—マニラ「演者の話し方」

—全員「笑」

学生「あんな話し方する人は現代にいないもんね:。他の二人は?」

—マディタ、ゾフィー「最初のパート。三味線とかかっこよかった。」

学生「雰囲気が良かったってマチェック言っていたけど、皆どう思う?」

—マディタ「雰囲気? ん〜(笑) 最初は良かったけど、見ている内に:え?! まだ続けるの?! みたいな(笑) 長かったわ(笑)」



左からゾフィーさん、マディタさん、マニラさん

—ゾフィー「長かったし、動きも遅かったよね(笑)」

学生「確かに(笑)」

海外の人にとって歌舞伎を理解する事は難しいようだ。実際、我々日本人でさえも完全に理解する事は中々難しいように思われる。(特に今回の歌舞伎は内容自体が難しかった) しかし、留学生は内容に集中できなかった分、視覚的に

歌舞伎の面白さを発見したようだった。彼らにとつて歌舞伎が非常に興味深いもので、もう一回観たいと思えるようなものだったと言うのは間違いない。日本の伝統芸能をもう一度観たいと言ってもらえて嬉しい限りである。

### ・留学生のクリスマスの予定について

学生「皆、クリスマスの予定は？」

―マチュック「マニラから話し始めてよ！」(笑)

―全員「ふふ(笑)」

―マニラ「(笑)。マディタとゾフィーと食べ放題に行くよ。」

学生「あれ？男の子とどっか行くのかと思っただ(笑)」

―マニラ「次の日：ね」

―マディタ、ゾフィー「ボーイフレンド！！！」

―マニラ「うん。彼氏と：」

学生「え！？マニラ彼氏いんの？！歌舞伎の話より聞きたいかも(笑)」

―マニラ「ちよつと前に：(笑)」

学生「他の二人は？」

―マディタ、ゾフィー「ノーロマンス！」

学生「リトルビットロマンスも無いの？」

―全員「(笑)」

学生「あれ、通じない：。(笑) ホントに二



左ゾフィーさん、右マディタさん

人とも恋愛無いの？」

―マディタ、ゾフィー「ないわ：」

学生「マチュックのクリスマスの予定は？」

―マチュック「ポーランド帰るよ。ノーロマンスのまま帰るんだ。」

歌舞伎のインタビュアーの間に、留学生のクリスマス事情も聞くことが出来た。留学生は勉強に努めながらも、日本での生活も楽しんでいるようだ。勉強、遊び、そして恋愛。どれを通して

ても日本の文化を感じることが出来る。留学生は、日々、充実した生活を送っているように感じた。

今回のインタビューを通して、日本の伝統芸能の歌舞伎と言うものが海外の人にどう受け止められるかを知る事が出来た。歌舞伎の演技、所作、三味線そして着物。留学生はそのどれに対しても「日本らしさ」と言うものを感じたようだ。歌舞伎には日本の文化が凝縮されており、日本文化の縮図とも言える伝統芸能なのだ。今回、留学生と共に歌舞伎を観る事が出来た事は本当に良い機会であり、歌舞伎を通して日本の文化を知ってもらえる事が出来て本当に良かったと思う。そして、我々も今回の歌舞伎の観劇を通して、日本の文化を再確認する事が出来た。

この記事を読んでいる方々も、もし日本に来た海外の人と交流する機会があったら、歌舞伎を観劇する事を是非勧めていただきたいと思う。

最後に、マニラ、マディタ、マチュック、ゾフィーの4名の留学生の方々へ。インタビュアーに協力してくださってありがとうございました。